

# わが校の紹介

「地域の支援を得ながら  
紺碧の空にそびえる氷ノ山  
見上げて育つ  
学舎に

養父市立関宮小学校

校長 中村晴敏

「紺碧の空にそびえる氷ノ山見上げて育つ 学舎に」で始まる校歌にあるように氷ノ山のふもとに平成16年4月、大谷・関宮・出合・熊次の4小学校が統合され、新たな関宮小学校がスタートしました。今までの4小学校の良き伝統を継承し発展させながら、豊かな自然環境と恵まれた郷土の歴史・文化を生かし、本校の教育目標である『こころ豊かに自ら学び、たくましく生きぬく、関宮っ子』を育みたいと考えています。

充実した校舎、広いグラウンドの恵まれた教育環境の下で、新たな伝統を学校・保護者・地域と連携をとりながら築きあげています。その一環



昨年行われた子ども歌舞伎公演

を紹介すると、春の鉢伏山登山、大運動会、学習発表会、校区内ウォークラリー、冬の親子スキー教室等があります。また児童たちは、子ども歌舞伎や金管バンド、少年野球、少女バレー、ジュニアサッカー、イヌワシ駅伝等、校外活動にも積極的に参加しています。児童会活動では、多くの仲間と早く仲良くできるように6年生から1年生までを縦割りにした班で遊んでいます。これを「ユークータイム」と呼び、「なかよし遊び」や

「七夕集会」「節分集会」等では、それぞれの班で上級生がリードする姿が見られました。本年度の総合学習・生活科の学習では、地域の自然・文化・伝統に学び、「兎塚女子挺身隊」「関宮の森林学習」「環境教育」「轟大根」「子ども歌舞伎」「さえもん」「愛宕山遠足」「関宮の祭り調べ」「ほのぼの会との交流」「ほたる作り」「関宮の昔の遊び」「雪像づくり」「ふれあいの郷訪問」「はちぶせの里訪問」等、地域の人々から関宮について教えていただきました。

また、始めたばかりの取り組みとして、ボランティアの方々による読み聞かせタイムや防犯グループの立ち上げ等、地域の皆さんにお世話になりながら「関宮っ子」を育てています。

統合前に各小学校が育ててきた学校・家庭・地域の連携を新たに築いていきたいと考えています。

## まちの文化財 ②

### 浅野の宝篋印塔と五輪塔

養父地域の浅野の県道沿いに、宝篋印塔と五輪塔が並んで建てられています。いずれも南北朝時代に作られた立派なものです。長く一つに積まれていましたが、平成11年に分離して整備されました。

高い方が宝篋印塔で低い方が五輪塔です。宝篋印塔は宝篋印陀羅尼經をおさめた供養塔

です。高さは約2・2メートルある市内で2番目に大きなものです。一方の五輪塔は、墓碑や供養塔として作られました。下から四角・円形・三角・半円・宝珠形の5個の石材を積んでいます。高さは約1・4メートルで、市内最大のものです。

基壇には「右志者為法界衆生也、沙弥道円、延文五七中」という文字があります。延文5年(1360)7月に、在家出家者の道円が、あらゆる命を供養するために造立したという意味です。この石造物には、井垣甚十郎の霊をまつるものだという伝承が語られて



います。家老の井垣甚十郎が、稲津城の殿様から奥方との密通を疑われました。そして井垣が打ち首になる時、自分の首を建屋川に流してくれば、無実を証明するために必ず上流にさかのぼるだろうと遺言しました。首を川に置くと、船谷の上流までさかのぼり、淵で7日間ぐるぐるまわりまわりました。現在ここは7日めぐりと呼ばれています。

殿様が非をわびると8日目に下流に流れました。殿様は井垣の霊をなぐさめるために、浅野に供養塔を建てたということです。

600年以上も昔に作られた養父市を代表する堂々とした石造物が、県道を行き交う人々を今も、しっかりと見守っています。

(社会教育課)